

## H22年度燕市児童研修館子どもの森における福祉文化セミナーのまとめと感想

(報告者：H23.2.28 北陸ブロック理事 五十嵐 真一)



### 【はじめに】

新潟福祉文化を考える会では、現場セミナーをできるだけ毎年開催するように心がけて活動しています。それは、この現場セミナーが学会の中心的な活動の一つに位置付けられているものであるからです。その現場セミナーを昨年度に引き続き、今年度も燕市において多くの皆様のご協力を賜りまして、この「燕市児童研修館子どもの森」で開催できました事は私達会員にとって大変嬉しく、有り難いことです。ご協力くださいました関係各位には本当に感謝申し上げます。

### 【今年度の現場セミナー】

今年度のセミナーでは、特に「おもちゃ」や「子育て支援」をテーマに地域での福祉文化について学ぶことができたと思います。

前半のおもちゃ福祉文化講演会は、学会創設時の初代事務局長として一番瀬前会長の片腕を務められた現芸術教育研究所所長の多田千尋先生と多田初代事務局長の後を引き継ぎ、第2代事務局長として学会を拡大・発展させる役割を担われた、現日本グッド・トイ委員会事務局長の馬場清先生のお二人から「おもちゃ」・「子育て」などをキーワードとして日頃の実践や取り組み、そして福祉文化の世界への誘いなどについてご講演していただきました。多田先生からは、「自動ドア」や「オセロゲーム」等の具体例も交えてお話していただきましたが、それは「福祉の文化化」や「文化の福祉化」についてわかりやすくご説明いただいたものであったと思います。

また、馬場先生からは現在のおもちゃ美術館が以前、小学校の校舎だった建物を改築して新たに生まれた経緯を地域や地域住民とのかかわり合いの重要さと関係付けてお話していただきました。更に現在、取り組んでいる木育（もくいく）についてもご説明いただきましたが、それらは地域の中で福祉文化を開花させていったお話でもあったと思います。そしてこれらの取り組みは、福祉の質を高めることにもつながっていくものであると感じました。

後半は、燕市内で子育て支援の活動をされているNPOなど3団体から3人の方が日々の実践活動や活動する上で困っていることなどについてご報告いただきました。

色々な問題を抱えながらも支援を必要とする人々と支援する人々が、様々な環境などが十分ではない中で少しでも良い方向を探して活動している姿が目には浮かぶような報告会でした。

2日目の午前中は、おもちゃドクターの皆さんがおもちゃ病院を開院する中、地域の子供たちが家族とグッド・トイで遊ぶ場に参加して一緒に楽しい時間を過ごさせていただきました。